

埼玉県高等学校職業教育技術顕彰 : 本校取り組みのまとめ

著者	金城 幸廣, 手塚 雅之
著者別名	Kinjo Yukihiro, Tezuka Masahiro
雑誌名	研究紀要
号	38
ページ	111-118
発行年	2000-12-26
URL	http://hdl.handle.net/2241/9093

埼玉県高等学校職業教育技術顕彰

— 本校取り組みのまとめ —

工業科 金城 幸 廣
商業科 手塚 雅 之

1. はじめに

職業教育の活性化について埼玉県が技術顕彰制度を導入して定着した感がある本校においても数年前から職業教育技術顕彰を取り入れ成果を上げている。

今回、過去の2件の報告を基に今後の展望について着目し報告を行いたい。本校紀要35集において職業技術顕彰の意義・本校の実体を紹介した。資格試験の意義として達成度の確認、高等学校を社会との中間地点と捉えた際の有効度、目的を持ち目的を達成した際の喜びを生み出す教育的意義等があった。更に紀要36集において教育的効果の紹介を行った。今回過去の集計をもとに今後の展開を中心としてまとめを行なった。

2. 埼玉県職業教育技術顕彰の概要

2.1 制度の目的(要点)

- (1) 専門教育の学習に目的意識をもち、職業資格のや技術検定によって技術の習得に努める。
 - (2) 資格試験を通して専門教科に対する学習意欲を高める
 - (3) 将来、社会で活躍できる産業人を育成する。
- 以上が考えられる。

2.2 顕彰の時期

毎年8月と2月に行う。

平成12年度の場合の提出期間

前期 平成12年7月01日～7月21日

後期 平成13年1月11日～2月08日

2.3 手続きの流れ

- ア 申請する生徒が埼玉県職業教育技術顕彰申請書(様式1)を記入する。
- イ 各種検定、合格証書等の写しを作成する。
証書は縮小コピー可であり1枚に複数コピーでも可である。
- ウ 担当者が申請書(様式2)、名簿(様式3)を作成する。
- エ 様式3をフロッピーディスクに保存する。
- オ 個人の申請用紙、様式1(合格書添付)、申請書(様式2)、名簿(様式3)、様式3を記録したフロッピーディスクを関係部事務局へ提出する。

3. 本校における技術顕彰所得者と実績

3.1 試験の概要と合格者数

本校で行っている主な資格試験の概要について以下に示す。

(1) 工業系で指導等を行っている資格試験

○計算技術検定試験

目的：技術計算を日常学習の基礎としている工業教育では、計算の合理化、省力化は不可欠である。本協会では一定の基準を定め、電卓・ポケコンの正しい使い方、実技能力の向上を図ることを目的とする。

合格状況

年度	受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成10年	34	19	55.9	59.5
平成11年	29	21	72.4	56.5
平成12年	24	16	66.7	—

○製図検定試験

(1) 基礎製図検定試験

(2) 機械製図検定試験

目的：製図の基礎知識をよく理解し、投影図法を確実に把握する能力を養い、製図教育の振興を図る。

※基礎製図検定試験の例

合格状況

年度	受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成10年	14	6	42.9	43.8
平成11年	16	7	43.8	55.6
平成12年	17	11	69.7	—

○情報技術検定試験

目的：工業技術者として必要な基礎的情報技術に関する知識と技能が取得されているか検定する。

※情報技術検定3級の例

合格状況

年度	受験者	合格者	合格率	全国 合格率
平成10年	24	19	79.2	52.2
平成11年	34	28	82.4	59.9
平成12年	28	23	82.1	—

(2) 商業系で指導等を行っている資格試験

○簿記検定

目的：商業科目の基礎科目、経営活動に伴う取引を、明瞭に記録・計算・整理するための知識と技術の修得を図る。

○ワープロ検定

目的：商業活動に必要な文書処理に関する知識と技術を習得させ、機器の操作の習熟の度合いを図る検定である。

○情報処理検定

目的：コンピュータとその利用に関する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解を図る検定。

○電卓検定

目的：商業活動に必要な計算を合理的、能率的に処理するための知識と技術を習得させ図る検定。

○英語検定

目的：英語を通して商業に関する実務を行うための知識と技術を習得させ図る検定。

○秘書技能検定

目的：秘書の職務について理解を持ち、一般的な秘書業務を行うのに必要な知識、技能について図る検定。

3.2 資格試験系列毎の取得状況

(1) 工業系

平成8年度	前期		
	後期	3年次	7名
		3年次	7名

		2年次	1名
平成9年度	前期	3年次	5名
	後期	3年次	6名
		2年次	8名
平成10年度	前期	3年次	3名
	後期	3年次	6名
		2年次	2名
平成11年度	前期	3年次	2名
	後期	3年次	8名
		2年次	11名
平成12年度	前期	3年次	2名
	後期	3年次	1名
		2年次	4名

(2) 商業系

平成8年度	前期	3年次	7名
	後期	3年次	10名
		2年次	3名
平成9年度	前期	2年次	5名
		3年次	8名
	後期	3年次	6名
平成10年度	前期	3年次	12名
		2年次	4名
	後期	3年次	6名
		2年次	2名
平成11年度	前期	3年次	10名
		2年次	3名
	後期	3年次	10名
		2年次	12名
		1年次	1名
平成12年度	前期	3年次	3名
		2年次	4名
	後期	3年次	10名
		2年次	10名

3.3 各年度毎における合格者数

平成8年度	工業系列	15名
	商業系列	20名
平成9年度	工業系列	19名
	商業系列	19名
平成10年度	工業系列	11名
	商業系列	24名

平成11年度

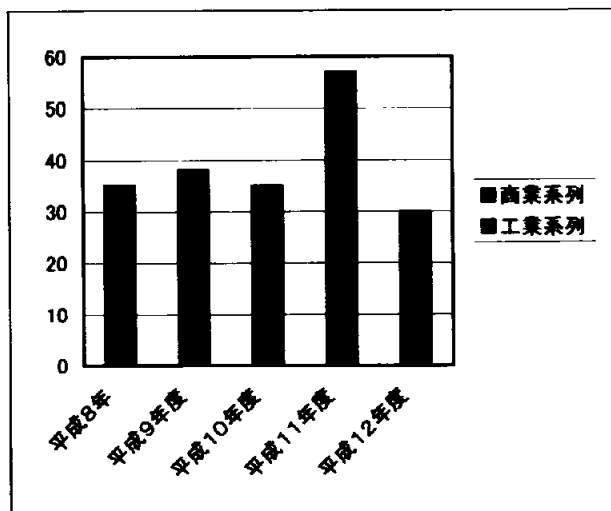
工業系列 21名

商業系列 36名

平成12年度

工業系列 7名

商業系列 23名



4.1 受賞者へのアンケート

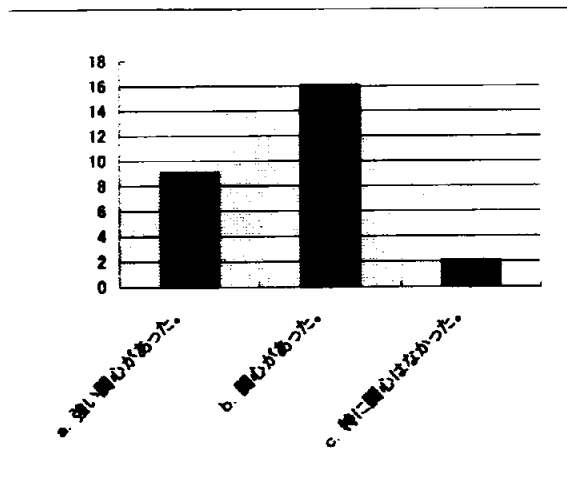
本校紀要第35集、36集において技術顕彰受賞生徒の感想文、及び生徒の概要についての紹介を行ったが、本報告では受賞した生徒の一般的な様子を把握するために一定の質問内容に基づいたアンケートを行った。また、数人の生徒の受賞した感想をまとめた。アンケートを実施した生徒は平成10年度入学の生徒である。

4.1.1 埼玉県職業教育技術顕彰を受賞して

(アンケート)

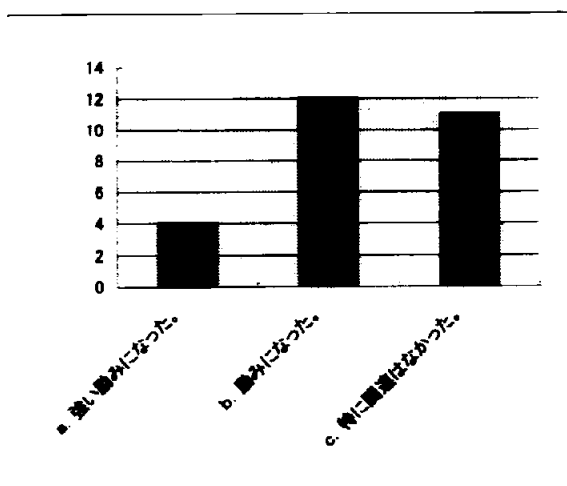
(1) 資格試験について関心があったか。

- a. 強い関心があった 9
- b. 関心があった。 16
- c. 特に関心はなかつ 2



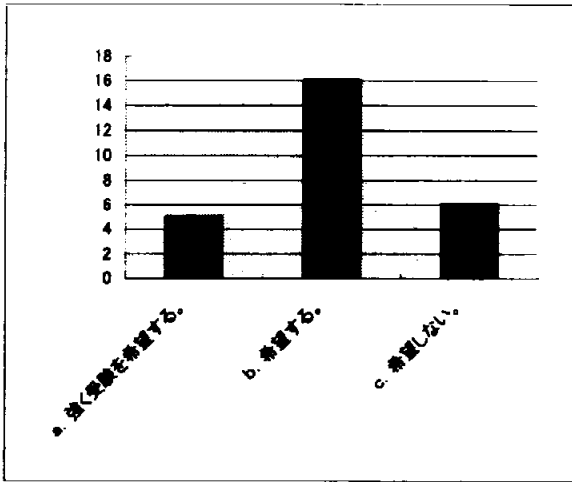
(2) 埼玉県職業教育技術顕彰の存在が資格試験受験の励みになったか。

- a. 強い励みになった 4
- b. 励みになった。 12
- c. 特に関連はなかつ 11



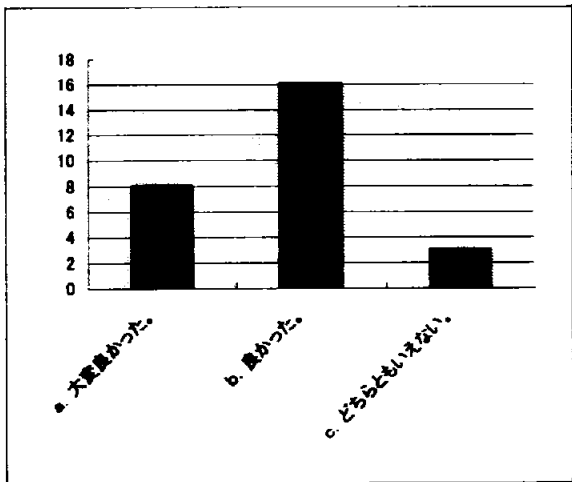
(3) 埼玉県職業教育技術顕彰受賞後更に上級の職業教育技術顕彰があれば取得に向けて、多くの資格試験を受験するか。

- a. 強く受験を希望す 5
- b. 希望する。 16
- c. 希望しない。 6



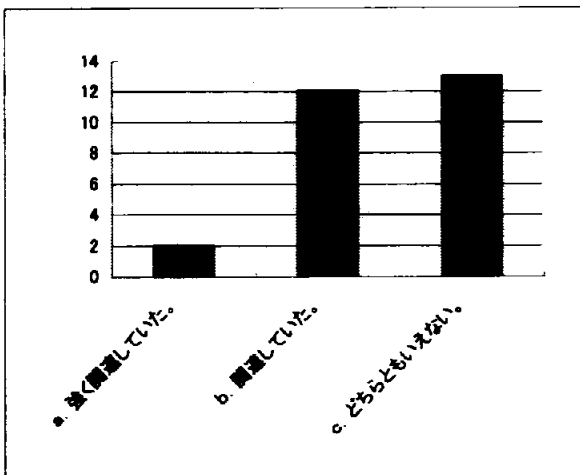
(5) 埼玉県職業教育技術顕彰を受賞して良かったか。

- a. 大変良かった。 8
 b. 良かった。 16
 c. どちらともいえない 3



(6) 資格試験と埼玉県職業教育技術顕彰の関連はあったか。

- a. 強く関連していた 2
 b. 関連していた。 12
 c. どちらともいえない 13



4. 1. 2 埼玉県職業教育技術顕彰の制度の問題点を書きなさい。

- もっと価値を高くする。
- 取得して何がどうなるかわからない。
- あまり効力はない（顕彰の主旨はよろしいが点を集めれば誰れも取れるのでその重さというものはあまりなく、受験や就職においてもそれほど役に立たない）
- 全国でももう少しレベルの高いものがあつたらいい。
- 好きでもない資格を取ってしまう。
- 顕彰をとっても大学進学へはあまり関係はない。
- 顕彰の締め切りが試験の結果がくる前になっている。受かってもらえない。
- 点数制は個人の技術力の向上に向いてない。
- 技術顕彰を取って何が良かったかはっきりしない。

4. 1. 3 受賞生徒感想の要約

生徒A（工業系男子）

「色々な資格に挑戦しているうちに検定試験を受験することが面白くなった。受けた検定試験はすべて一回で合格した。それは興味を持ったことは自然に努力することが理由である。不必要な資格試験にも挑戦し取得したがいい経験になった。技術顕彰の存在がやる気を向上させた。これからも検定試験に挑戦したい」

生徒B（工業系男子）

「2年次となった専門教科が増え、授業と関連した資格試験が増えた。工業系列の資格試験に挑戦しているうちに多くの資格を取得した。技術顕彰の為に資格試験を取得するのではなく、資格を有効に活用したい目的で資格試験に挑戦したい。」

生徒C（商業系女子）

「技術顕彰についての話があった時、取得する意志はなかったが、授業に関してや自主的に検定試験を受けて行くうちに技術顕彰の取得を希望するようになった。難しい検定試験は準備・練習を繰り返して合格するようになり、達成感があった。技術顕彰を取得したときこれまでの積み重ねの結果であると思ひ感動した。」

生徒D（商業系女子）

「最初技術顕彰については必要ないと思った。技術顕彰を受賞後、取得した検定試験のランクに関心が深まり、もっと高い得点の資格を目標とするようになった。今では「自分は商業系なのだ」という自覚ができ、検定試験を受験する楽しさが生まれた。技術顕彰の存在で常に上を目指し目標ができた。」

生徒E（工業系男子）

「最初、技術顕彰には関心がなかったが授業に関連した事で検定試験を受けているうちに技術顕彰が目標になった。そこで技術顕彰の存在が目標となり努力した結果すべての受験した資格試験に合格し、自然と技術顕彰を取得できた。資格試験に挑戦して努力した結果が自分の為になった。」

ここで平成9年度入学した生徒の技術顕彰受賞の感想と生徒の様子を紹介することにより、資格試験に取り組んだ概要と技術顕彰の役割について考えてみたい。尚、文章は原文のまま記載した。

4. 2. 1 取得した生徒の様子

（平成9年度入学取得生徒の感想）

生徒F（男子）

II類メカトロニクス系列（平成11年度前期取得）

修得資格（ランク）

実用英語技能検定準2級（A）

漢字能力検定3級（C）

計算技術検定3級（C）

情報処理能力検定2級（B）

情報技術検定3級（C）

ワープロ検定2級（B）

プログラミングコンテスト優良賞〔入賞以上〕（C）

埼玉県職業教育技術顕彰を受賞しての感想

技術顕彰について知ったのは2年次の前期でした。2年次の間はこの顕彰に対して特別に価値のあるものとは思っていませんでした。この顕彰よりも、他の資格を取ることや、テストで少しでも高い得点をとることを望んでいました。特別に難しい手続きがあるわけもなかったのですが、ずっと申請の機会を逃して、結局、3年次の前期終了時に受賞しました。

今こうして振り返ってみると、顕彰を受賞することが出来て、卒業するまでに受賞しておいてよかったと感じています。2年次までは、競争する相手が構内、学年、クラス、仲間といった、選択科目による偏りはあるものの、本人次第で全て平等な条件で資格を取ることが出来ました。その為、顕彰に対して誰でも受賞する事が出来、それに対してあまり価値を感じていなかったのかも知れません。しかし、3年生になり、受験という目標に向かって自分の進路を見定めていたとき、競争相手は学校だけではなく他校の生徒も加わり、大分意識していました。受験と言った競争の中で、他人とは違う、自分というも

のをアピールする為の道具の一つとして、同時に、総合学科の高校に入学した自分の行って来たことを確認する為のものの一つとして、この顕彰に対して大きな意味を改めて感じました。

僕は主に工業系の科目を学んでいます。在学中はあまり自ら積極的に自分の学んでいる分野の資格を取りに行ったとは正直言って思いません。この感想を考える為に振り返って感じたことを頭の中に入れ、今後は、今よりも沢山の資格修得を目指したいと思います。それだけが自分の能力を証明するものになるとは思いませんが、自分の能力を十分に発揮できる様に色々なことに挑戦し、将来に役立てていきたいと思っています。

私は、この学校に入ろうと思った理由の一つが検定をたくさん行っている所でした。だから特にこの埼玉県職業教育技術顕彰を取りたいかではなく、検定を受けていたらそういう制度があったので受けてみたい感じです。でも、賞をもらえるというのはうれしいです。私の周りの人も、大部分の人が、埼玉県職業教育技術顕彰を今は意識して検定を受けています。きっと、大きな目標になっているのではないかと思います。

私は、資格というものは、今後の自分に大きなプラスになると思っています。それは、その資格に向けての努力すること、少しでも多くの知識が増えること、あと就職でも有利なことなどです。私は、将来、CAD利用技術検定を受けようと思っています。それは私のやりたい職業にあった方が断然良いと思うからです。

資格というのは、私達の社会でとても重要で、あればあるほど良いものだと思うので、私はこれからもどんどんと取得していきたいと思っています。

生徒の様子

本人は本校工業科メカトロニクス系列の科目を中心として時間割を作成した生徒である。日頃の授業も大変真面目で多くの資格試験に挑戦し資格試験を取得した。

生徒G（男子）

II類機械技術系列（平成11年度前期取得）

修得資格（ランク）

乙4危険物取扱者（B）

基礎製図検定（C）

計算技術検定3級（C）

ガス溶接技能講習修了（D）

アーク溶接技能講習修了（D）

2級ボイラー技士（A）

私は両親と先生方に「資格はたくさん取れ」と進められたので検定試験にチャレンジしました。私は工業系の

科目を選択していたので、工業系の資格の方が比較的取得しやすいだろうということと、将来その資格が活かせる職場につきたかったため工業系の検定試験を多くチャレンジしました。また、コンピュータにも強い関心があり、新しい技術を学ぶことと、その技術をどこまで活かせるかを試してみるためにチャレンジしました。

工業系の検定試験は法令が難しく、何度も挫折しそうになりました。しかし、あきらめずに参考書を読み、見事に資格が取得できました。コンピュータの検定試験は頭を使うことよりも、タイピングの速さがものを言うので、ブラインドタッチの練習を幾度となくやりました。そのおかげで、1年のときにあれほど苦戦を強いられた検定が、今では時間が余ってしまうほどブラインドタッチになりました。どんな検定試験でも、受かるとうれいものです。特に周りが「難しい」と口をそろえて言うような検定に受かる事は非常にうれしく、また自分に自信が持てるようになります。もう、技術顕彰をもらえる点数に達しているからとは思わず、これからもどんどん資格を取り就職、趣味の拡大など様々な事でこの検定資格を生かしていこうと思います。

生徒の様子

工業系の機械技術系列の生徒である。資格試験のほとんどを機械系列科目に関連して取得したという特徴がある。難関の危険物取扱者試験や2級ボイラー技士等難関の試験にも挑戦し成果を上げている。

5. 考 察

生徒の感想から技術顕彰を受賞した生徒には多くの共通点があることが分かる。

- 資格試験に挑戦して行くうちに技術顕彰取得が目標になった。
- 技術顕彰受賞を一つの目標達成の区切りとなった。
- 多くの資格試験を取得後更に、資格試験に興味がわき達成感を味わった等である。ここで過去の報告を検討しながら考察を行う。

(1) 資格試験取得による効果

第35集において資格試験取得による効果として、教科における修得度、学習意欲の向上、資格試験取得による自信、等があげられた。

第36集においては教育的効果として資格を取得することによる専門知識の充実、資格に挑戦することによる自分に対する挑戦等が上げられた。しかし反面、資格が

思うように使えなかった等もある。従って資格試験は絶対ではないにしろ、学習意欲の向上、チャレンジ精神においてはきわめて有効であろう。

更に全国的には資格試験の拡大をはかり資格取得を単位認定へと結びつける動きもある。やはり資格の持つ意味を十分に考え慎重に対応することが必要であろう。

第35集で記載した今後の課題の中で技術顕彰受賞の目安として、基準が9点以上であるという妥当性があるがこれは資格における単位認定制度とかなり関連した分野で相互に検討することが必要であろう。

資格試験には多くの様々な議論がなされている。

(2) 資格試験と関連教科の結びつき

多くの資格試験において各対応した科目があり、授業の一環としての資格試験の位置づけが多い。資格試験の内容と授業内容、及び放課後の放課後の補習等々の必要性を考慮した対策がなされている。

(3) 今後の課題

埼玉県教育機関においては資格ランクや新たな資格試験の追加等継続的に行われた。これはきわめて評価できることである。

平成12年度新たな資格試験追加、見直しの例

- 毒物劇薬ランクの見直し
- グリーンセーバーベイシック
- ホームヘルパー
- 情報処理ランクの見直し
- 編み物ランク見直し
- 高校クッキング選手権ランク見直し

取得した生徒は平成10年度入学の生徒を見ると、2年次において取得20人、3年次において取得10人であった。やはり資格取得を目標におけば多くの生徒が受賞可能である。これは本校が総合学科であり、多様な科目選択が可能の中で多くの資格試験が挑戦できることによる。

時代は変化するものである。教育改革についても様々な提言が行われている。従って埼玉県職業教育技術顕彰においても更に改革が必要であろう。その例として、上級の職業教育技術顕彰の制定等が考えられる。理由として、生徒には1年次より多くの資格試験にチャレンジを行い、1年次から技術顕彰を受賞するケースがある、その場合新たに資格試験にチャレンジする希望があるが目標を失うことがある。そこで多くの資格試験にあるように例として初級、上級等のように技術顕彰そのものの比

較を行った級を付ける必要性が生じる。前述のように資格試験を目標に向かってのチャレンジと捉えるならば、必然的に上級の試験へと対応することが考えられる。

6. おわりに

埼玉県職業教育技術顕彰と本校生徒の反応を中心として研究を行ったわけであるが、多くの生徒が目標を持ったようである。目標は達成されたと同時に埼玉県教育委員会に感謝する次第である。

平成10年度受賞生徒の様子を見るとやる気を持った自立した生徒が圧倒的である。多くの資格試験が各科の達成度の延長線にある。従って各選択科目を普通に取り組んでおけば合格できることが多い。そこには資格試験の内容と社会における必要性を吟味した指導体制の確立が重要となる。

参考文献

- * 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第35集
本校における埼玉県高等学校職業教育技術顕彰の取り組みⅠ
- * 筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要 第36集
本校における埼玉県高等学校職業教育技術顕彰の取り組みⅡ

平成12年度 検定試験一覧

種 類	級	第1回	第2回	第3回
計算技術検定	4～1	6月17日	11月18日	
機械製図検定		6月3日 (一次試験)	7月1日 (二次試験)	
基礎製図検定		9月16日		
パソコン利用技術		12月16日		
情報技術検定	3～1	1月8日		
日商簿記検定		6月11日	11月18日	2月25日
全商簿記検定		6月25日	1月13日	
全経簿記検定		7月 9日	11月26日	2月18日
埼玉研簿記検定		10月1日		
埼玉研ワープロ検定		2月11日		
埼玉研秘書検定		2月11日		
秘書検定		6月25日	11月12日	
日商ワープロ検定	2	5月21日	9月30日	
	3	6月17日	10月21日	2月10日
	4	7月15日	11月18日	1月27日
全商ワープロ実務検定		7月 2日	11月26日	
全商コンピュータ利用技術		9月24日		
全商電卓実務検定		12月3日		
全経電卓検定		5月13日	7月15日	10月1日
全商商業経済検定		2月4日		
編み物検定		9月17日		
漢字検定	2～4	6月17日	10月21日	1月20日
実用英語検定		6月17日		